令和７年度　空港業務DX推進官民連絡会発表

AI監視カメラを活用した空港警備DXの実証実験

三菱地所株式会社　室岡延寛
セコム株式会社　西野剛

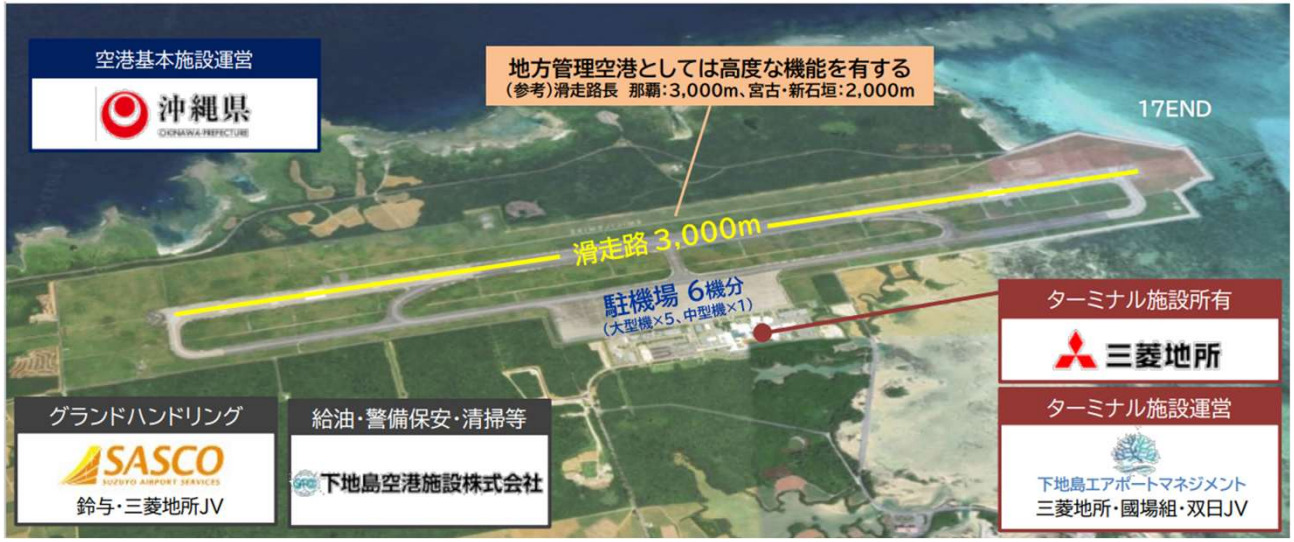
2025.12.11

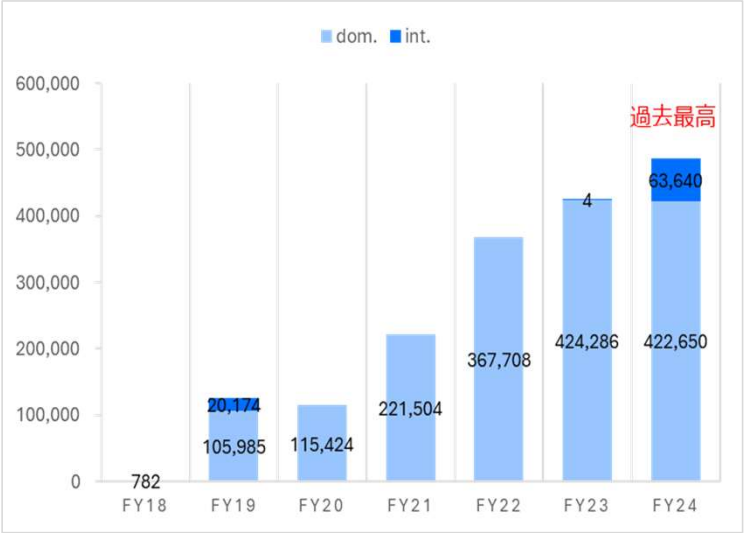
Copyright © MITSUBISHI ESTATE Co., Ltd. All Rights Reserved.

下地島空港の紹介

2019年３月以降、訓練空港から宮古島の新しい玄関口として生まれ変わり、利用が拡大

・三菱地所グループでは、旅客ターミナルの設置・運営と路線誘致活動を展開。国内線と国際線共に宮古島への新規路線は下地島空港で受け入れるようになった。　※下地島空港及び周辺用地の利活用事業（第１期）
・コロナ以降、顕在化した人気をエアラインと協力して着実に積み重ねることで、2024年度利用者は約48万人。
・次年度以降も更なる引き合いがある中、**受入体制整備は重要な課題（離島では特に緊急の課題）であり、空港の関係事業者と連携して共同で取り組んでいる。**





Copyright © MITSUBISHI ESTATE Co., Ltd. All Rights Reserved.

警備DXの経緯

足元の課題：
・新規定期便の就航や既存便の時間改善が限定される。
・輻輳時間帯において保安レーンが増設できない（旅客サービスレベルの低下）。
・国際線ビジネスジェット受入れに必要な警備員の追加配置ができない。

短中期・中長期両輪で持続可能な警備体制を構築

	警備リソースの拡充	警備省人化
目的	柔軟な警備体制の構築	現有リソースでより多くの便（特に輻輳便）に対応
課題	・雇用環境の変化 ・採用後の資格者養成	・効率的な警備方式 ・警備力の維持
リードタイム	中長期	短中期
対策	採用力のある雇用条件等	**デジタル技術の活用**

Copyright © MITSUBISHI ESTATE Co., Ltd. All Rights Reserved.

警備DXの期待効果と対策

期待効果のポイント

警備負荷軽減

- 警備環境のリスク増加
- 警備要件の高度化

- 機械警備への代替
- 監視強化（早期警戒）
- 警備状況の記録

警備リソースの有効活用

- 縦割りの警備契約
- 非効率なシフト

- 警備のマルチタスク化
- シフトの平準化
- 現場のシフト希望反映

コスト抑制

- 人件費の上昇
- 間接業務増加
  （契約調整等）

- 人件費(上昇率)の抑制
- 間接業務の削減

コンセッション運営の知見から空港一体で取り組む視点で検討

AIカメラを活用した統合警備体制の構築

- 定常記録（早期警戒）
- エリア集中監視（大量・同時の画像処理）
- コストマネジメント

Copyright © MITSUBISHI ESTATE Co., Ltd. All Rights Reserved.

実証概要（プラン）

目的：

① 監視カメラ及びAI機能の実用性の検証
② AI監視カメラを使った警備体制の実効性の検証（省人化運用の検証）
③ AI監視カメラを使った警備力の評価（リスクアセスメント）
④ 警備DXに最適な警備体制の検討

日時：２０２５年６月１６日～２０日（５日間）

場所：下地島空港　国内線駐機スポット、旅客動線および旅客ターミナル

使用機材：ネットワークカメラ８台、クラウド型監視AI、監視モニター２台

体制：【実施主体】
三菱地所（旅客ターミナル所有者 兼 同警備業務委託者）
下地島空港施設（下地島空港の警備業務受託者）
下地島エアポートマネジメント（旅客ターミナルの運営・管理者）
セコム（本件実証監修者）

【協力事業者】
沖縄県下地島空港管理事務所
スカイマーク

Copyright © MITSUBISHI ESTATE Co., Ltd. All Rights Reserved.

まとめ（実証を通じて得た知見）

1 **AI監視カメラを使った警備方式により、持続可能な空港警備の可能性が見えてきた。**
＞警備DXは警備の高度化、省人化を両立する効果がある。

2 **空港の現場の特性に合わせてテーラーメイドのDXを検討する。**
＞警備員と機械のシナジーを最大化できる技術の目利きが必要。

3 **警備DXは空港の総合力が問われるため、各警備主体が連携して取り組む。**
＞空港全体で警備を見直す全体最適の視点が必要。

※下地島空港では、航空局のご支援の下、関係事業者と協力して DX警備実装を検討中。

Copyright © MITSUBISHI ESTATE Co., Ltd. All Rights Reserved.

謝辞

今回の発表は、第１回連絡会のマッチングの成果であり、本連絡会を企画いただいた航空局及び関係各社様に御礼を申し上げます。

～今回の警備DXに関心のある方のご支援できる機会があれば幸いです～

Copyright © MITSUBISHI ESTATE Co., Ltd. All Rights Reserved.